

JACET-Chubu Newsletter

社団法人大学英語教育学会中部支部 No.24

支部長挨拶

新体制の始動に際して
小宮富子（岡崎女子短期大学）

4月から新しい執行部で、JACET 中部の活動を担当してゆくこととなりました。支部活動のさらなる活性化をめざして、課された役割を誠実に果たしてゆきたいと願っております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

大学英語教育学会が社団法人となって以後、事業活動の統合化と透明化に向けたシステム作りが整いつつありますが、支部独自の会計活動が認められなくなるなど、支部活動の運用面では不自由さの目立つ2年でもありました。本部とのやりとり膨大なエネルギーを費やしてくださった前執

行部の先生方の誠実さと責任感に改めて感謝したいと思います。学会といえども組織としての在り方を「問われる」時代ですので、活動の透明性や合目的性に関する説明責任はあるわけですが、学会のアイデンティティは何よりも研究活動の豊かさ・独自性・有用性・先進性にあるわけですので、研究の質的な充実こそエネルギーを注ぎたいものだと思います。

3月の社員総会では、森住前会長が「大学英語教員受難の時代」という言葉を使っておられました。漫然と授業をこなすだけの教員像を社会は求めていないということであり、そうであるならば、やはり社会の要請に正面から応えてゆかねばなりませんし、英語学習に関する世間の誤解にも反論してゆかねばならないと思います。日本人にとって英語習得がなぜこんなに難しいのか、どうすれば日本人の脳の中に英語の音と単語と文法と語用論的な情報が刻みこまれて、必要と場面に応じて適切に再生されるようになるのか、そのための仕掛けをどのように準備するのか、学生にどこまでの集中を覚悟させるのか、等等、英語習得には人間の精神活動の根源に関わる問いが存在しているといえます。

JACET 中部では支部大会・講演会・定例研究会などで、内外の優れた研究者や実践者の先端的な研究・活動に触れる機会を設けています。講師の方々の問題認識の鋭さ・情報量の豊かさ・本質を抽出する手法や科学的態度などから刺激やヒントを得る喜びは実に大きなものです。また会員発表や支部紀要への投稿・研究会活動などを通して会員が相互に学び、研鑽するための環境も準備されています。これまでも活発な活動を実施してきた中部支部ですが、現代社会が求める英語と英語教育のあり方について、新しい世代を中心とするさらなる発信に取り組んで行きたいと願っています。

目次

新体制の始動に際して	小宮富子	1 頁
第 27 回中部支部大会へのお誘い	小宮富子	2 頁
研究会活動報告		
ESP 研究会	馬場景子	2 頁
講演会報告 1		
大島 純氏	佐藤雄大	3 頁
講演会報告 2		
宇佐美まゆみ氏	津田早苗	4 頁
会員著書紹介	大森裕實	5 頁
CyberSpace	石川有香	5 頁
会員フォーラム	大森裕實	6 頁
掲示板・事務局より		8 頁

第 27 回中部支部大会へのお誘い 小宮富子 (岡崎女子短期大学)

6月6日(日)に中京大学八事キャンパスにて「第27回JACET中部支部大会」が開催されます。大会テーマは「多文化共生時代の英語教育」であり、多文化共生時代といわれる現代社会が求める英語と英語教育のあり方について多角的な視点から議論を深めることを目的としています。

今回の支部大会には、各分野で第一線の活躍をされている先生方を講演会やシンポジウムの講師としてお招きすることができました。特別講演では青山学院大学名誉教授の本名信行先生が「多文化共生時代の英語教育—English across Cultures」と題するお話しをお聞かせ下さいませ。また大会テーマを冠したシンポジウムでは、異文化間コミュニケーションと応用言語学をご専門とする関西大学大学院教授の八島智子先生や、第二言語習得に関して国内外での活躍が注目されているピッツバーグ大学言語学科教授で言語科学会(JSLs)会長の白井恭弘先生、また応用言語学をご専門で一昨年にJACET賞学術賞を受賞された神戸大学大学院准教授石川慎一郎先生の3名の先生にご発言いただき、支部長がコーディネーターを務める予定です。豪華な講師陣から大いなる刺激をいただける期待に文字通り「わくわく」する思いです。

英語または日本語による会員発表も多数予定されています。会場となる中京大学八事キャンパスは交通の便もよく、利用しやすい環境となっておりますので、会員諸氏には是非ご参加いただき、支部総会や懇親会などにも可能な限りご出席いただきたいと願っております。当日は書店による専門書の販売なども予定されています。今後は、中

部支部のホームページを通してタイムリーに学会情報を提供してゆきますので、支部大会の詳細等につきましても、同時にお送りしましたプログラムの他、<http://www.jacet-chubu.org/>でご確認をいただきたいと思います。

研究会活動報告

ESP 研究会

大学英語教育学会監修『英語教育学体系』の第4巻は、ESPに特化した内容である。ESP教育の重要性が叫ばれ始めて久しく時間が経過したが、ESP研究者は次の世代の英語教育を明確にその視野の中に入れていく。

今年の2月20日、広島国際大学国際教育センターで広島ESPセミナー「ESPの理論と実践」が開催された。全国のESP研究会が集結した感があるセミナーであった。後援は、科研プロジェクト<情報爆発型社会におけるESP研究プラットフォームサイトモデルの構築>であった。開会挨拶のあと、野口ジュディー氏(武庫川女子大学)の「ESPの理論」、森口稔氏(広島国際大学)の「科研プロジェクト報告」が午前中に行われ、昼食後、「ESP実践」では、内藤永(旭川医科大学)「要約課題を通じたジャンル分析」、草薙優加氏(秋田県立大学)「EGPからESPへの橋渡し—生物資源科学部における実践授業」、山崎敦子氏(芝浦工業大学)「工業系ESP教育・研究実践報告」、馬場景子(中部大学)「工業英語を取り巻く教育環境」、倉内早苗氏(青森公立大学)「自律した学習者を目指して—グループ活動を用いたビジネス英語の授業実践」、山内ひさ子氏(長崎県立大学シー

大学の授業をより多くの人に・・・

★授業ライブ配信, デジタルコンテンツ化支援(遠隔授業, 復習, 通信講座, 大学PRに)

各種支援サービス

★E-Learning (制作請負, Speech Evaluation, TOEIC®対策, English Gym 他)

★各言語 Proofreading, Narration

【お問合せ】 グローバルエフォート (株式会社 Newton FC group)
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2-17-11 伏見山京ビル 1F, 7F
TEL : 052-204-0305 + 専用線 708 FAX : 052-204-3888
<http://www.global-effort.com> E-Mail: info@global-effort.com

ボルト校)「観光英語の授業実践」、椋平淳氏(大阪工業大学)「ジャンル導入教材としてのポップソング」の実践報告が行われ、その後、全体総括としてフリートーク形式のシンポジウムが行われた。最後に寺内一氏(高千穂大学)が JACET は、積極的に ESP 研究プラットフォームサイトモデルの構築を推進することを ESP の展望の一つとして推進することを述べた。

懇親会は広島川の沿いのイタリア料理カノーバカノーバで、参加者は一日の労を労い、さらなる ESP 教育の推進を誓いあった。

ESP 関連著書紹介

○小池生夫監修、寺内一編集、小池生夫、寺内一、高田智子、松井順子、(財)国際ビジネスコミュニケーション協会著『企業が求める英語力』朝日出版

本書は 2006 年 4 月から 2008 年 3 月まで行われた科学研究費補助金基盤研究 A「第二言語習得研究を基盤とする小・中・高・大の連携を図る英語教育の先導的基礎研究」の成果の一部をにさらに 53 項目のアンケートを作成し、約 7,300 人の国際的に活躍する日本人ビジネスパーソンの回答を分析し、英語教育の方向性を提言した内容となっている。提言もさることながら、データブックとして秀逸である。

○寺内一著『ビジネスキャッツ』南雲堂
人工太陽光線開発プロジェクトをスタートさせるビジネスキャッツ。アメリカ猫、日本猫が国際ビジネスシーンを展開する。ニャンともいえない温かいイラストは、堅いイメージのある ESP から一時解放させてくれる。以上 2 冊、ご一読あれ。
ESP 研究会代表 馬場景子

講演会報告 1

2009 年度 12 月定例研究会

「大学英語教育における授業デザイン研究」

大島 純氏(静岡大学情報学部)

2009 年 12 月 19 日

(於 名古屋工業大学)

大島純氏(静岡大学)は、1990 年代から体系化されてきた「学習科学 Learning Sciences」の研究者として活躍し(放送大学教材『学習科学』

(2004)、『教授・学習過程論：学習科学の展開』(2006)の編著者)、日本の学習科学研究を牽引している研究者である。「学習科学の定義とは？」ということ講演会の質疑応答で私が直接大島氏に聞いたところ、大島氏はまだまだ新しい学問領域であり、研究者によって解釈の違いはあるが、今まで教育学の中で踏襲されてきた「実験群と統制群」を用いた実験的研究とは違った研究方法を追求し、学習現場で起こっている「学習」の多様な要素とそのダイナミズムを対象とした研究である点では一致していると答えた。

当日の講演では「大学英語教育」をテーマにして欲しいという中部支部からの要望に誠実に応えていただき、前半で自らの協同学習による問題解決活動の経年比較研究を紹介した後、大学英語教育と学習科学という話となった。大島氏は今回の講演を機会にあらためて大学英語教育のあり様を考えた時、大学英語教育は「高等教育におけるリベラル・アーツの代表例」であり、教育活動としてその重要性と困難さをあらためて認識したと語った。それは大学において英語教育ほどすべての学部が対象となる教科はなく、英語学習に関心がある、ないに関わらず学生の教育にあたっている点で教養科目を代表していると考えたからである。またその教育の成果が常に社会的な関心の対象であり、厳しい評価にもさらされている点も他の教科にはない特色であると指摘した。

このような大学英語教育を学習科学から考えると何が言えるのか。大島氏は「学習科学」の一つの中心テーマである「熟達 expertise」について説明し、大学教育が各分野の熟達者を養成する機関であることを考えるとリベラル・アーツの役割はその熟達教育の前段階を用意する役割があると考えていた。学習科学領域では「熟達教育に対してリベラル・アーツは何ができるか」という問題意識があり、今回の考察によってこのリベラル・アーツは英語教育抜きにして考えることはできず、大島氏は学習科学研究者として大学英語教育のこれからの展開にとっても関心があると語っていた。最後の質疑応答では、自らのトロント大学大学院での異文化経験も語られ、様々な面から私たち大学英語教育関係者に示唆と知的刺激を与える講演であった。

佐藤雄大(名古屋大学)

講演会報告 2

2009 年度 2 月定例研究会

「ディスコース・ポライトネス理論と外国語教育」

「相対的ポライトネス」の理論から対人
コミュニケーションという観点を含んだ言語教育へ

宇佐美まゆみ氏 (東京外国語大学大学院)

2010 年 2 月 27 日

(於 名古屋工業大学)

ハーバード大学の教育学博士号を取得し、独自のポライトネス理論を展開されている宇佐美まゆみ氏を中部支部定例研究会にお招きし、講演をお願いした。期待に違わぬ迫力に満ちた講演であった。

氏は最初にポライトネス理論の中で広く知られたブラウンとレビンソン (以下 B&L) の理論をとりあげ、彼等の理論では扱えない事象があることを指摘した。次にこれらを説明できる理論としての氏のディスコース・ポライトネスを紹介し、最後にこの理論がどのように言語教育に応用できるかを提案された。

第一に氏はこれまでの「ポライトネス」研究理論がどのように変容したかを概観し、その中で特に B&L (1997) の理論をとりあげ、その理論のどこがポライトネスの普遍的理論構築にとって重要であるかを説明した。フェイス、フェイスの侵害度 (以下 FT=Face Threatening)、フェイスの侵害とポライトネス・ストラテジーとの関係、ポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・ポライトネスとそれぞれのストラテジーの説明の後、氏は B&L のポライトネス理論では一つの発話行為、あるいはその連鎖におけるポライトネスの説明に留まり、より長い談話におけるポライトネスをう

まく説明できないこと、敬語体系を持つ言語の説明や例がほとんど無いこと、一見 FTA が無いように見える行動のポライトネスが説明できないこと、インポライトネス (マイナスポライトネス) をほとんど扱っていないことなどを指摘した。

次に B&L の理論では適切に説明・解明されないポライトネスの側面を氏のディスコース・ポライトネス理論ではどのように捉えることができるかを説明した。氏の理論で重要な概念の一つに有標と無標ポライトネスがある。有標ポライトネスとは B&L における FT 軽減行為としての言語行動 (ポライトネス・ストラテジー) を指す。無標ポライトネスとは FT 軽減行為として捉えられない言語行為で守られて当たり前の行為を指す。

もう一つの重要な概念には絶対的と相対的ポライトネスである。絶対的ポライトネスとは「行く」より「いらっしゃる」は丁寧度が高いなど言語形式や表現の丁寧度を指す。これに対し「相対的ポライトネス」は言語形式そのものではなく、特定の談話において何が基本状態 (default) であり、そこからの逸脱や回帰により判定されるポライトネスを指す。

氏は特定の談話における基本状態 (default) を想定し、そこからの逸脱する言語行為が有標であるか、無標であるかにより、ポライトネスまたはマイナスポライトネスを説明できるとする。このように基本状態からの逸脱という観点からポライトネスを相対的に捉えることにより、日本語のような敬語のある言語もそうではない英語のような言語も統一的に扱うことができると氏は主張する。

最後に氏は日本語会話能力試験 ACTFL におけるフォーマル/インフォーマルの使い分けや CEFR の C1 レベルにおける社会的・学問的・職

成美堂 2010 年 Seibido New Publications 新刊

Power Reading 1 -Reading in Chunks.....	1,890 円(税込)	Practical Tips for the TOEIC® Test.....	2,100 円(税込)
Power Reading 2 -Reading in Paragraphs.....	1,890 円(税込)	Boost Your English 1 -Practice for TOEFL® (TP)....	2,625 円(税込)
Reading Expert 2.....	1,890 円(税込)	Boost Your English 2 -Practice for TOEFL® (TP)....	2,625 円(税込)
Science Views.....	1,890 円(税込)	English Upgrade.....	1,890 円(税込)
Debating Current Issues.....	1,890 円(税込)	News for You -2010/2011 Edition.....	1,995 円(税込)
English Career Paths to Success.....	1,890 円(税込)	America in Motion.....	1,890 円(税込)
CBS News Flash on DVD 2.....	2,415 円(税込)	Living in Japan Tomorrow.....	1,890 円(税込)
Exploring World Heritage on DVD.....	2,415 円(税込)	Pharmaceutical English 2.....	3,150 円(税込)
American Spirits in Movies.....	2,520 円(税込)		
Everyday English for Nursing on DVD.....	2,625 円(税込)		
Step-up Listening.....	2,205 円(税込)		
A Strategic Approach to the TOEIC® Test Listening.....	945 円(税込)		

株式会社 成美堂 

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
URL <https://www.seibido.co.jp> e-mail: seibido@seibido.co.jp

業の目的に応じた柔軟・効果的な言葉遣いなどの指標において、ポライトネスが具体的に取り上げられていないことを指摘した。そして、氏のディスコース・ポライトネスを応用することにより、学習者が目標言語の基本状態を把握することの重要性、FT 度の適切な見積り、その場に応じた丁寧度の選択などについてよりの確かな指導が可能となることを説明した。

超多忙な日程を調整し、膨大な研究の要点を明解に説明して下さった氏に感謝したい。

(東海学園大学 津田早苗)

会員著書紹介

足立公也・都築雅子 [編]

『学校文法の語らなかつた英語構文』

(中京大学文化科学叢書第 11 輯)

勁草書房 2010 年 157 頁

本書は中京大学に附置された文化科学研究所の叢書第 11 輯として 2010 年 3 月 30 日に上梓されたばかりの書籍で、全 6 章から成る啓蒙的学術書である。上掲 2 名の共編者の他に、中川直志と大森裕實を加えた 4 名で執筆陣を構成しているが、これら共著者のうち、都築と大森が JACET 中部支部会員であることに留意されたい。ここで本書に啓蒙的学術書という、やや耳慣れない分類名称を与えたのには理由がある。「はしがき」にも述べられているように、本書編纂の意図が「学校文法、とりわけ、5 文型では扱われなかつたり、軽く触れられた程度で十分な説明が与えられてこなかつた文法現象や構文をとり上げ、英語学・言語学の入門者および英語の文法に興味をもつ読者を対象に、なるべく平易に説明することを目指した」ところにあることは確かなようだが、近年陸続とシリーズ化して刊行される傾向にある啓蒙書、例えば「言語・文化選書」(開拓社)のように、盛り込む情報量を抑えて十二分に噛み砕いた解説を行なうことに本書が必ずしも成功しているわけではなく、それぞれの章末の註にも微細な記述箇所が看取されるからである。つまり、本書は専門分野に特化した論文集のような記述態度ではないが、専門性がそれほど低いともいえない。その意味からは、結果として、少し骨のある文法解説書を求め

る英語学習者にとって新しい知的発見の喜びで脳内刺激をかなえることのできる、恰好の難易度と分量でまとまっていると評価してよい。

さて、本書の構成と内容について簡単に言及すると、第 1 章 There 構文 (大森)、第 2 章 Tough 構文 (中川)、第 3 章 使役交替構文 (都築)、第 4 章 二重目的語構文 (足立)、第 5 章 補文構文 (足立)、第 6 章 結果構文 (都築・足立) となっており、いわゆる第 1 文型から第 5 文型までの学習過程に疑問として生じる重要な問題点を浮き彫りにしている。また、それぞれの英語構文に取り組むアプローチにも多様性が認められ、第 1 章は機能主義的であるが、第 2・4・5 章は形式文法的 (最新のミニマリズムを含む) であり、第 3 章は語彙意味論的立場に依拠している。第 6 章ではそれらが複合的に関与して、最近多くの研究成果が発表され、焦眉の的ともいえる構文について、全体像が読者に把握しやすいように、(蛮勇を奮って?) 敢えて大鉈を振り下ろした感がある。

最後に、本書刊行の背景的事情の一端を述べて本稿を閉じることにしたい。この企画に先立つ 2008 年度末に語彙意味論研究会という小さな読書会が発足し (都築が世話役で、足立・安藤・大森・高橋が参加)、Levin & Rappaport (1995) *Unaccusativity* の内容を改めて確認精査する作業が行なわれたが、JACET 会員によるそうした地道な研究活動の成果の一部がこうした書物の形で結実したことは、まことに同慶の至りといわざるを得ない。※本稿では学問的民主主義の立場から、敬称を省略した。

大森裕實 (愛知県立大学)

CyberSpace

「英語の…」

石川有香 (名古屋工業大学)

このフレーズの後に続くものは何だろう。一般的などころでは「辞書」や「ニュース」だろうか。大学教員ならば、「多様性」や「必要性」が出るかもしれない。日本語のネイティブからは様々な答えが出てきそうだが、日本語を学ぶ留学生の場合、なかなか思いつかないようである。同様に英語の共起表現も、学習者にはむづかしい。

Adam Kilgarriff氏他による Word Sketch は、大規模コーパスを利用し、共起する高頻度語を文法機能別に提示してくれる言語分析プログラムである。Sketch Engine と呼ばれるオンライン・プログラムの一部で、語の振る舞いが1ページで見渡せるよう工夫されている。共起特性を一瞬にして把握することができるので、辞書の執筆者や言語研究者だけでなく学習者にも便利な仕様である。

Sketch Engine には Word Sketch の他、コンコーダンス・ラインを示す Concordance をはじめ、類義語の振る舞いの差異を示す Sketch-diffs など、優れたプログラムが含まれる。詳細は Kilgarriff et al. (2004)で述べられているが、ここでは簡単に Word Sketch の機能を紹介しておきたい。

たとえば、英国語をデータとする British National Corpus を選択し、eye を Word Sketch で表示してみると、eye を目的語にとる動詞は頻度の高い方から順に close、keep、open であり、eye が主語となる動詞は narrow、look、meet となる。eye を修飾する形容詞は、blue、dark、brown の順となり、eye が修飾する名詞は movement、contact、level となる。

単に頻度の高い共起語ではなく、統計的に有意な共起語を知りたい場合には、Advance という設定画面で提示方法を選択することもできる。frequency ではなく salience にチェックを入れておくとよい。

利用できるコーパスは、上述の BNC だけでなく、学術の場における話し言葉コーパスや書き言葉コーパスなどのコーパスも用意されており、用途に応じて選択することができる。さらに、キーワードを設定して、自分専用のコーパスを Web

から作成することもできるので、特定の領域での語の振る舞いを研究したい場合には非常に強力なツールとなる。

ゼミや研究室など数名で使用する場合は、別途契約が必要だが、ディスクの使用量が少ない個人の場合は、年間の使用料は 7500 円程度である。30 日間は無料で使用できるので、まずは、<http://www.sketchengine.co.uk/>で、試用をお勧めしたい。Sketch Engine は中国語、仏語、独語、伊語、日本語などのコーパスも装備されており、複数の言語を同じインターフェイスで処理することも魅力の一つと言えよう。Sketch Engine に付属の日本語コーパス JpWaC によると、冒頭の「英語の」に続く共起は、「勉強」「授業」「先生」となっており、「英語」は、まだまだ学校という場に強く結びついたままであると言えよう。

会員フォーラム

日本におけるフィロロジ研究の系譜 [覚書]

大森裕實 (愛知県立大学)

現代の英語研究について論じる際に、いわゆる「言語学的英語学 (English Linguistics)」と「文献学的英語学 (English Philology)」とに分類することがしばしば行なわれる。20 世紀末葉からの英語観の変化、すなわち EGL/EIL といった「交流言語」としての概念の浸透は、英語の推移を言語外的要因も視野に含めて考察しようと努める「目的言語」としての英語研究とは相反する動向であ

The Next Stage to the TOEIC Test
Basic & Pre-intermediate
CD-ROM で学習する TOEIC テスト
基礎編 & 準中級編

付属の自習用 CD-ROM で学習効果倍増!

Basic は 300 ~ 400 点レベル
Pre-intermediate は 400 ~ 500 点レベル

定価 (本体 2,400 円 + 税) 定価 (本体 2,000 円 + 税)

K 金星堂 KINSEI-DO 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21 電話:(03) 3263-3828 FAX:(03) 3263-0716
URL:<http://www.kinsei-do.co.jp> e-mail:text@kinsei-do.co.jp

り、一般化を目指す Linguistics には都合が好いが、個別化を目指す Philology にとっては分の悪い状況であるともいえる。しかし、実際のところ、フィロロジー研究は一般に想像されるような古めかしい訓詁の学というではなく、現代の英語を理解するために、書かれた文献（過去の遺産）を通して行なう広義の「言語文化学」であると再定義することができれば、あながち時代錯誤の研究分野ということにはならないであろう——これについては永嶋大典『蘭和・英和辞書発達史』(1976) の序論に正鵠を射た指摘があることに留意されたい。

ところで、本稿筆者が大学院で学び始めた頃に、英語学教授陣の学究・教育に対する姿勢に三つの類型があるように漠然と感じていたのだが——「帝大系」「高師系（文理大・教育大系）」「外大・商科大系」、この三系統が日本のフィロロジー研究の系譜を反映したものであるという興味深い事実については、のちに知ることとなった。

本邦初の英語学講座の主任教授に就いたのは（周知のごとく）市河三喜（東大）であり、日本英文学会や語学教育研究所と深い縁をもつ。市河は優れた養弟家でもあり、氏の編纂した『英語学辞典』（研究社，1940）の執筆陣（大塚高信・中島文雄・服部四郎・重見博一・岩崎民平・鈴木重威・佐々木達・清水護・木坂千秋・若林秀善・宮田幸一・神津東雄）をみると、当時の英語学の中心的研究者像とその分野が把握できる。市河の直系長兄は中島文雄（東大）と大塚高信（東京高師・文理大）ということになるが（『新英語学辞典』研究社，1982 を共編）、東大系の場合、中島の跡を襲った講座はむしろ言語学的英語学に重きを置いたため、文献学的英語学は教養学部において継承されたといえる。それは、宮部菊男—寺澤芳雄—久保内端郎の系譜であり、「中世イギリス研究資料センター」の活動もその一環にある。また、都立大にも、松浪有—小野茂—忍足欣四郎の系譜が誕生し、東外大系の秦宏一を加えて『英語発達史』（1973）、今井邦彦を加えて『大修館英語学事典』（1983）を世に送り出し、東西それぞれに活動していた研究会を統合した日本中世英語英文学会の設立に寄与した。一方、大塚門下は文理大同期の2名の特筆すべき高弟——荒木一雄（大阪市立大・名古屋大）と安井稔（東北大・筑波大）を輩出したが、そのどちらも養弟家のよき伝統を引き継ぎ、その門下から多くの研究者が誕生したこと

は記憶に新しい（それらを総動員して『現代英文法辞典』三省堂，1992 が編まれた）。荒木の方は通時的であり、安井の方が共時的であったことも、それが相乗効果を惹起せしめて、斯界の発展にとっては幸運であったという他はない。また、両名は既存の学会活動の不備を補い、英語学研究的活性化を意図して、奇しくも同年（1984）にそれぞれ、近代英語協会と日本英語学会を設立し、現在に至っている。

また、高師系は石橋幸太郎（教育大）を編集主幹にすえた『現代英語学辞典』（成美堂，1973）を刊行したが、その中心的編著者に鳥居次好（静岡大，中部地区英語教育学会・全国英語教育学会を設立）を認めることができる。戦後のガリオア資金（フルブライト奨学資金に継承）を受給して米国留学を果たし、アメリカ構造主義言語学の洗礼を受けた世代である。太田朗（教育大・上智大）もこの系譜である。さらに、共時的英語学つながりで言及するなら、*Treasure Island* をテキストにした市河の英語学講読の内容に精緻な註を施した岩崎民平は、のちに音声学と辞書学研究的礎を東外大に築いたが、その学風は竹林滋に継承された。

最後になったが、官学の系譜に加えて、私学のフィロロジー研究については慶應大の系譜に言及しておきたい。西脇順三郎（英詩）に代表される英文学科の系譜に厨川文夫—安東伸介・池上忠弘—高宮利行が連なり、日本中世英語英文学会に貢献すると同時に、国際チョーサー学会や国際アーサー王学会でも顕著な研究成果を披露している。英国ケンブリッジの郊外 Bury St Edmunds にマナハウスを改修した中世写本研究の研修センターを設立したことは特記しておかねばならない。

※紙幅の制約上、本紙にこれ以上の記述を行なう余裕はない。市河と同時代の細江逸記の件、豊田實（九大）の系譜と齊藤秀三郎『熟語本位英和中辞典』改訂の件、山本忠雄（広島大）に連なる榊井迪夫—河井迪男といったチョーサー研究の系譜、関西（神戸大・大阪大）を基盤に活躍する中世英国ロマンス研究会に集った人々については回を改めて記したい。※本稿では、学問的民主主義の立場から、偉大な先達に対する敬称を割愛したが、ご海容願いたい。

掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 8 号原稿の募集を致します。締め切りは 2010 年 8 月 20 日です。奮ってご応募下さい。なお、投稿規程は JACET 中部支部ホームページに掲載されております。

事務局より

◆ 新入会員のご紹介

2009 年 12 月より 2010 年 3 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

稲子あゆみ (日本大学 [非常勤])、パブリー・ボグダン (静岡理科大学)、木村春美 (Temple University Japan [大学院生])、村上美保子 (星城大学)、川崎智子 (名城大学 [非常勤])、加藤治子 (名城大学 [非常勤])、田中敦子 (岐阜大学)、亀山知佳 (中部大学大学院 [大学院生])

◆ 2010 年度支部役員

(所属・敬称略、ABC 順、任期は 2012 年 3 月末日まで)

顧問 田中春美
理事 小宮富子、大森裕實
支部長 小宮富子
副支部長 大森裕實
事務局幹事 下内 充
支部幹事 榎木藺鉄也

社員 (15 名)

石川有香、大石晴美、岡戸浩子、片野田浩子、木村友保、倉橋洋子、鹿野 緑、佐藤雄大、塩澤 正、清水克正、下内 充、津田早苗、馬場景子、村田泰美、吉川 寛

研究企画委員 (22 名)

石川有香、伊東田恵、岩城奈巳、榎木藺鉄也、大石晴美、岡戸浩子、片野田浩子、木村友保、

Leah Gilner、倉橋洋子、鹿野 緑、佐藤雄大、塩澤 正、清水克正、下内 充、津田早苗、丹羽義信、馬場景子、村田泰美、室 淳子、山中秀三、吉川 寛

支部紀要編集委員

塩澤 正 (委員長)、大森裕實、倉橋洋子、小宮富子、清水克正、津田早苗、山中秀三、吉川 寛

◆ 2010 年度 JACET 全国大会ご案内

第 49 回全国大会は 2010 年 9 月 7 日 (火)・8 日 (水)・9 日 (木) の 3 日間、宮城大学大和キャンパスにて開催されます。

大会テーマ:「明日の学習者、明日の教師—大学英語教育における学習者と教師の自律的成長—」

◆ 中部支部事務局移転のお知らせ

2010 年度より中部支部事務局は東海学院大に移りました。今後ともよろしくお願いたします。

〒504-8511

各務原市那加桐野町 5-68

東海学院大学 下内充研究室内

E-mail simoutim@tokaigakuin-u.ac.jp

Tel 058-389-2200 (代) 内線 257

Fax 058-389-2205

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

JECET-Chubu Newsletter 第 24 号

2010 年 5 月 10 日発行

発行者: 大学英語教育学会中部支部

小宮富子

編集者: 下内 充

石川有香 片野田浩子